

4・23反戦闘争実集会 決議文

本日私たち「有事立法 改憲阻止 反帝国連帯 反戦闘争実行委員会」は、「4・23安倍政権打倒！ G7伊勢志摩サミット粉碎！ 改憲・戦争法発動を許すな！ 反戦行動」を開催した。

集会では、1975年フランスのランブイエの首脳会合を起点に、毎年開催されてきたサミットが、帝国主義・独占資本の世界支配のための利害調整談合であり、帝国主義首脳を終末を誇示・強化するものとしてあることを確認した。帝国主義こそ、戦争と新自由主義グローバリゼーションによって、世界の労働者人民・諸民族に貧困・搾取・戦争の悲惨な状況を強制する元凶だ。

5月26・27日に、三重県志摩市賢島で開催される第42回G7首脳会議（伊勢志摩サミット）に反対し、帝国主義の支配粉碎！ 「対テロ」戦争反対！ 安倍政権打倒！ を掲げて断固として現地闘争に立ち上がろう。本日の反戦行動をはじめ、つくば、名古屋、大阪・神戸など全国各地でサミット反対の行動が闘われる。

これらの闘いを積み上げて、26・27日首脳会合に対し、警察権力の弾圧体制を打ち破って、帝国主義の支配を弾劾する反帝国連帯共同闘争を闘おう。

今回の伊勢志摩サミットにおける政治領域のテーマは、「対テロ」戦争継続の軍事連携強化であり、朝鮮民主主義人民共和国（以下共和国）に対する戦争重圧・解体攻撃である。IS（イスラム国）掃討の強化は、中東侵略戦争の強化・拡大であり、イスラム人民の反帝闘争を分断し、帝国主義支配に抵抗するシリア・アサド政権やイランの解体を策動するものだ。さらに中東侵略戦争のなかで、生きるために難民となって欧州に命がけで向かう人民を追い返す、「難民対策」を強化するものだ。

また共和国への戦争重圧は、アメリカをはじめとする帝国主義・中国・ロシアによる核独占体制を防衛し、朝鮮半島の自主平和統一を破壊する攻撃だ。オバマの「核なき世界」論の欺瞞を弾劾しよう。

安倍政権は、伊勢志摩サミット議長国として、戦争法を根拠に「対テロ」戦争への参戦を目論み、共和国への戦争重圧強化の旗振り役を果たそうとしている。また伊勢志摩サミットの成功を宣伝し、アベノミクス破綻を糊塗し、参議院選挙（衆参同日選挙）の勝利へつなげようと目論んでいる。

安倍政権は、伊勢志摩サミットを天皇制強化にも利用しようとしている。天照大御神を祀る神社として「明治」から敗戦まで国家神道の頂点に存在した伊勢神宮が、今回の首脳会合開催の場所選定の最大の根拠であった。まさにサミットを利用した天皇制賛美であり、日本の「伝統」や「精神性」をでっち上げる愚行だが、改憲・元首天皇制の布石でもある。

天皇制賛美と一体に、安倍政権は「テロ対策」として空前の治安弾圧体制をひいて、サミット反対の声を封じ込め、「テロ対策」一治安管理体制へ人民の服従を強制している。盗聴法・共謀罪と一体の戒厳態勢を粉碎しよう。

安倍政権が伊勢志摩サミット開催にこめる政治目的を徹底的に弾劾し、全国各地で反サミット闘争を打ち抜き、首脳会合粉碎を掲げ、現地闘争に決起しよう。

以上決議する。